

復興の光景－8年後の女川町の姿－

■早くも(平成23年から25年にかけて)

震災から2年目の平成25年の春、高台にあった総合グラウンド跡地では、住宅の建設が始まった。同じ頃、漁村部でも高台の造成地が完成し、新集落の再建を目指して住宅の再建が始まった。

一方、漁業関係ではすでに震災のあった平成23年には、カツオやサンマの水揚げが量は減ったものの再開され、この年の9月には盛大に秋刀魚収穫祭が開催された。水産加工も仮設の工場が完成、生産量は震災前を下回っているが何とか軌道に乗った。

■震災から5年(平成28年)

さらに3年後の平成28年、撤去された仮設住宅の跡地に、次々と住宅が建ち並んでいる。この年には地盤のかさ上げと宅地造成のすべての工事が終わり、すでにはじめていた住宅建設もさらに進み、復興は最終段階に入った。

■本格復興期(平成28年～30年)

○新しい街並みの誕生

そして平成28年、女川に新しい街並みが誕生した。

被災地内のすべての住宅が高い場所に建設され、地震発生時に津波が来る危険がある地区には、すぐ高台の避難場所に避難できるように避難道路も整備された。海が見える高台の住宅地にはさまざまな人が生活しやすいように、いろいろなタイプの町営住宅ができています。静かな住宅地の中には公園も数多く整備され、そこからは子供達の声が絶え間なく聞こえる。住宅地の中には日常の生活用品を売っているお店もあり、普段の生活も困らないようになっている。

町役場など災害時に重要な活動を担う施設もすべて高台に整備され、二度と津波で被災する心配はない。

○人々の交流(本格復興期)

女川町の復興の大きな特色であるメモリアル公園には国内外から多くの観光客が訪れるようになった。観光客は、まず転倒したビルの実物を見学、津波のパワーを肌で感じている。海洋学に関する学術研究施設もさらに充実し、観光客や津波などを学外学習に取り入れた修学旅行生、水産業や津波などを専門的に学びに、海外からも含めて、多くの研究者も来訪している。地元の人たちとの交流も盛んだ。

清水地区には津波で被災した町営住宅があり、ここに行くと今でも津波の高さが分かるようになっている。3階の展示場に行くと津波襲来時の様子、復興にいたる町民の苦難の様子を知ることができる。この施設は津波の怖さを地元の子供達に伝えるとともに国内外に向けた啓発拠点としての役割を果たしている。

観光客はその後、魚市場内にある食堂で女川名物の魚料理を堪能、そして土産を手にとり帰って行く。

○基幹産業の発展(本格復興期)

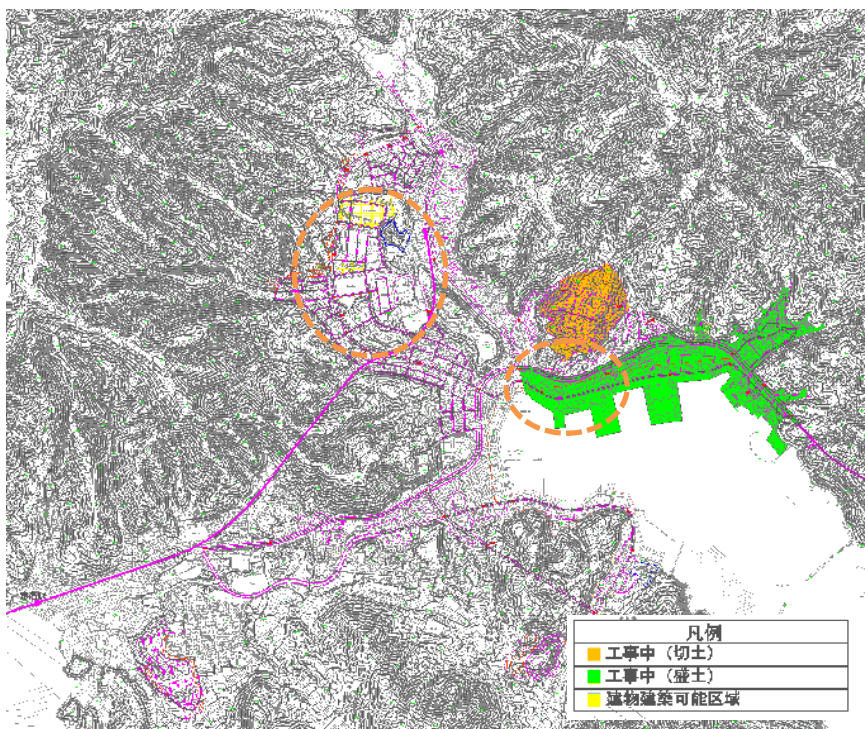
すでに水産業も軌道に乗り道路も整備されたことから震災前より活気のある町ができた。

港町女川は今、津波を正しく恐れ、自然に恵まれた環境の中で水産業を中心にさらに発展しようとしている。

造成、住宅・まちづくりの事業展開イメージ

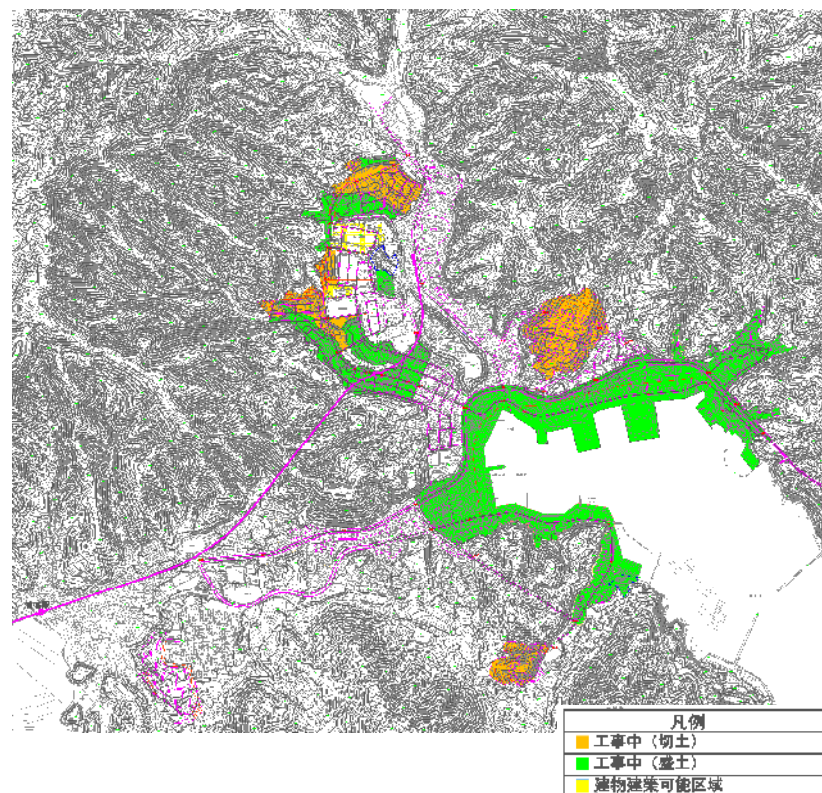
	7	8	9	10~12	1~3	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
町のスケジュール	復旧期【2年】					基盤整備期【3年】					本格復興期【3年】	
造成、住宅・まちづくり			○町民の仮設住宅への入居完了	○がれきの撤去完了 ○被災市街地復興推進地域の指定		○運動公園の住宅地整備 ○造成工事(切土)開始 ○造成工事(嵩上げ・盛土)開始	○仮設住宅の撤去 ○復興住宅建設開始		○防潮堤、湾口防波堤の完成予定 ○重点的復旧の漁港整備予定		○嵩上げと宅地造成完了 ○本格的な復興市街地形成	

復旧期(1年目) 平成23年度



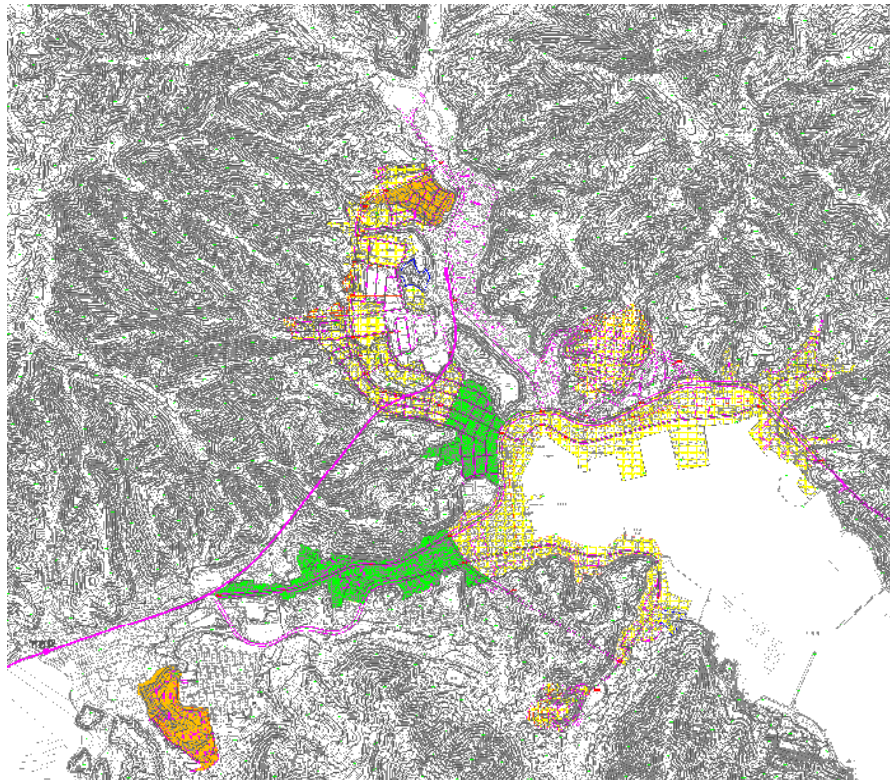
復興まちづくり先行推進地区
(仮称)

復旧期(2年目) 平成24年度



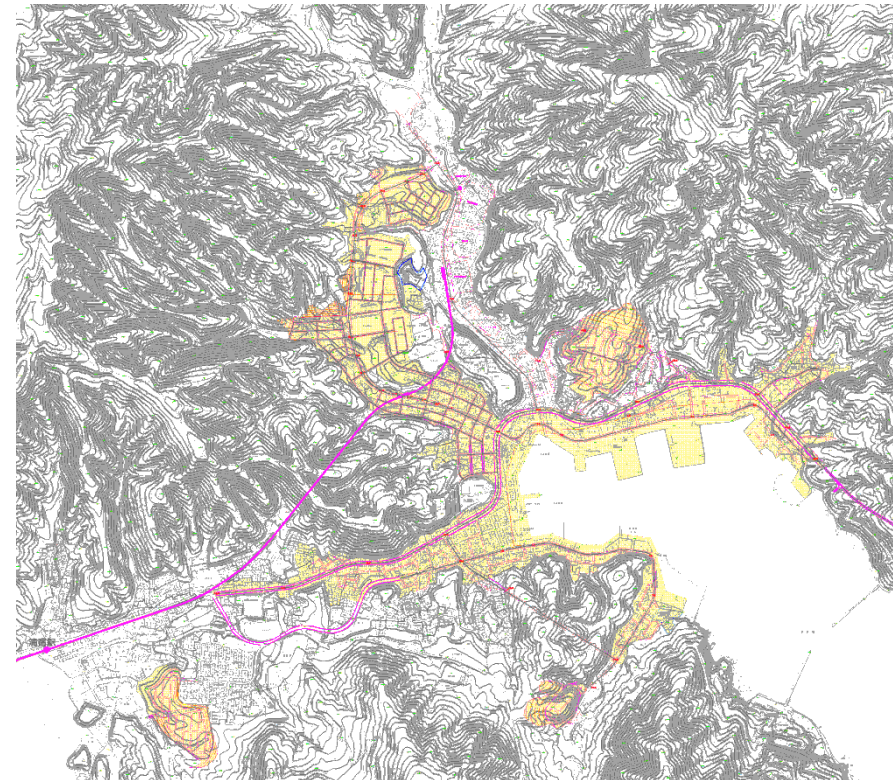
造成、住宅・まちづくりの事業展開イメージ

基盤整備期(3年目～5年目) 平成25年度～平成27年度



凡例	
■	工事中(切土)
■	工事中(盛土)
■	建物建築可能区域

本格復興期(6年目～8年目) 平成28年度～平成30年度



凡例	
■	工事中(切土)
■	工事中(盛土)
■	建物建築可能区域

造成、住宅・まちづくりの事業展開イメージ

復旧期 (1年目)

- 仮築堤による高潮等への安全性の確保
- 仮設住宅の建設と就業場の早期復旧

復旧期 (2年目)

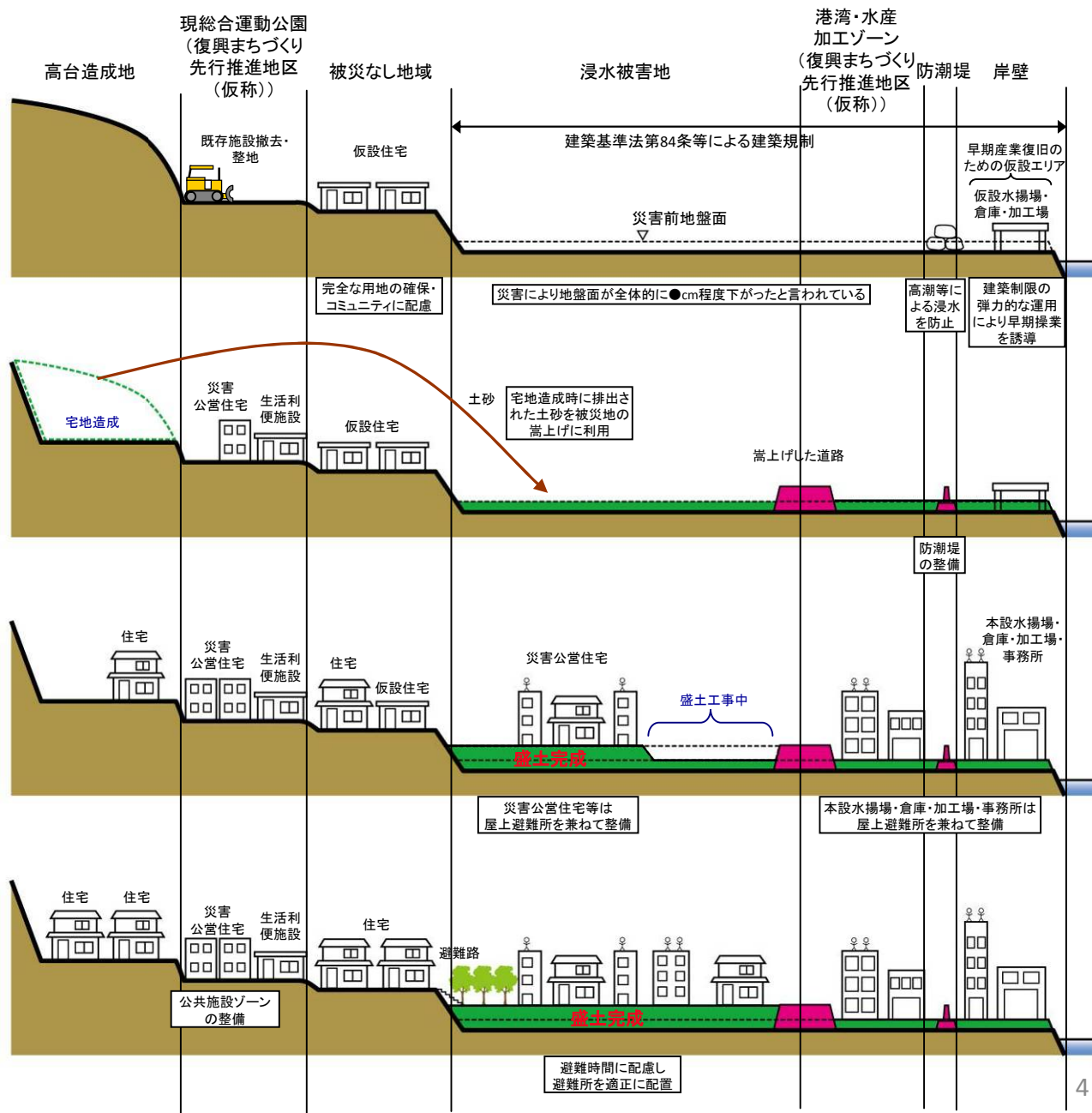
- 現総合運動公園用地での最低限の生活利便施設および災害公営住宅の整備
- 安全性を高めるため、住宅造成の残土を利用し、従前以上の地盤高(宅地・道路)に嵩上げ
- 復興に必要なインフラの整備と宅地の整序

基盤整備期 (3年目~5年目)

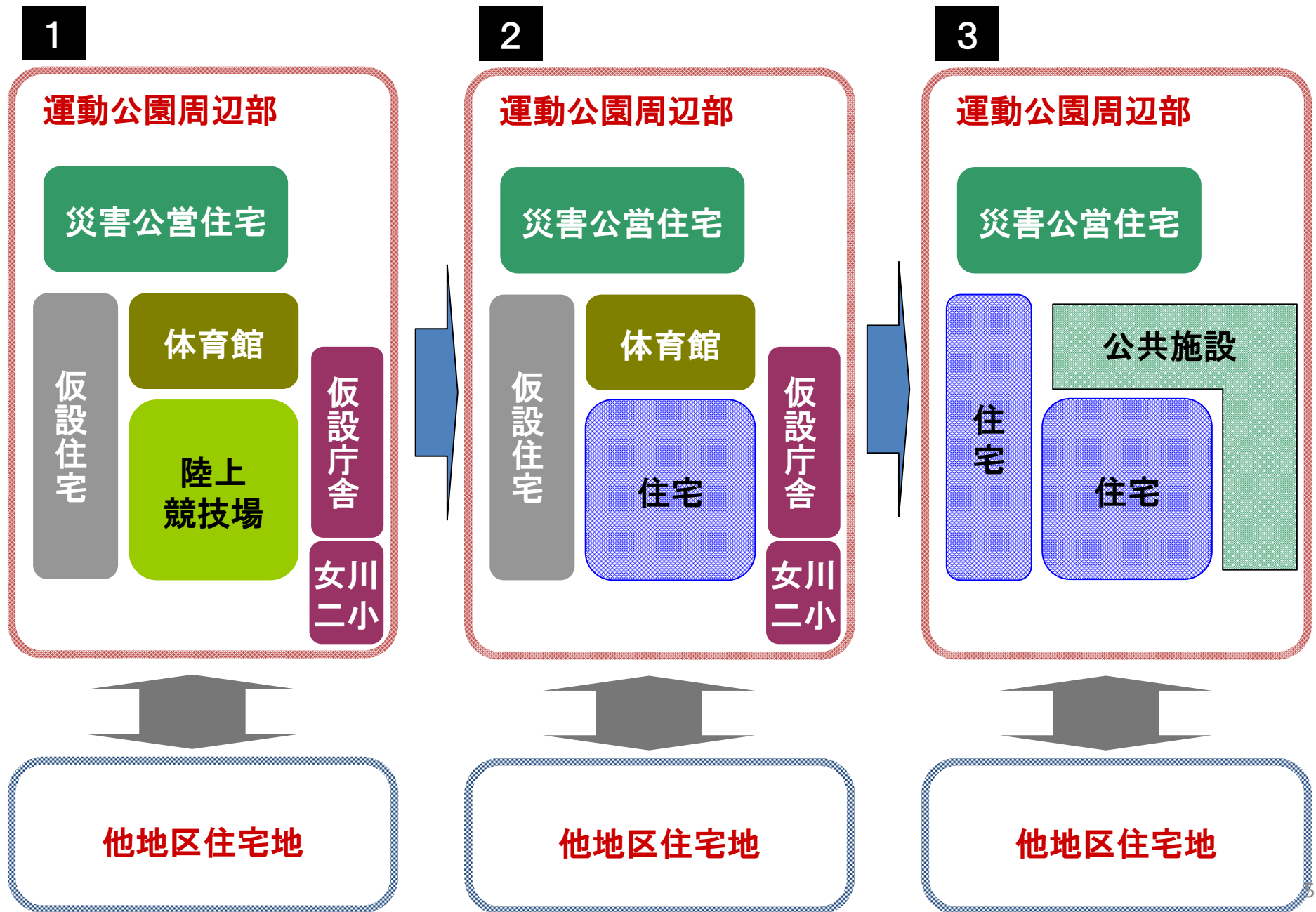
- 造成完成用地での災害公営住宅等の建設
- 徒歩を前提とした避難可能範囲内の住宅の再建

本格復興期 (6年目~8年目)

- 避難所、避難路の適正配置
- 本格的な復興市街地の形成



復興まちづくり先行推進地区(仮称)の段階的整備イメージ



産業の展開イメージ

	6月	7	8	9	10~12	1~3	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
町のスケジュール	復旧期【2年】						基盤整備期【3年】			本格復興期【3年】			
町の事業	○護岸の仮復旧 ○仮設魚市場 ○仮設の保冷库			○町民の仮設住宅への入居完了		○がれきの撤去完了		○仮設住宅の撤去		○嵩上げと宅地造成完			
漁業	○カツオ定置網始まる			○サンマ漁始まる		○養殖業の再開(ワカメ、ホヤ、ホタテ、銀鮭等短期品目)		○養殖業の再開(カキ)					
水産加工	○仮設加工場の操業再開 ○冷凍冷蔵コンテナ導入				○本格的仮設再開								○市場・水産加工場等の本格再開
商工・サービス	○共同の組織体制の構築			○コンテナハウスで復興商店街(鷺神浜) ○朝市開催		○本格的仮設再開						○商店街等本格再開	
観光業	○漁港再開・初競等のPR活動 ○秋刀魚収穫祭再開				○金華山観光など既存観光の再開				○金華山初巳大祭		○公共交通機関の本格稼働 ○観光事業の本格再開		



仮設加工場



復興商店街